Operation
Manual

携帯手書き入力タブレット

ペンシャトル取扱説明書

－　WEB カンファレンス対応－

はじめに

この取扱説明書は、WEB カンファレンスサーバー対応の携帯手書き入力タブレット「ペンシャトル」の機能と操作方法を説明しています。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。

なお、「ペンシャトル」のハードウェア（入力タブレットと専用ペン）の取扱については、帳票筆跡入力ツール「ペンクリッパー」と同様ですので同梱の取扱説明書を必ずご併読願います。

また、「WEB カンファレンスサーバー」の機能・操作方法に関しましては、「WEB カンファレンスサーバー」の「ユーザーマニュアル」をご参照下さい。

ご注意

●本書の内容は、性能・機能の向上などにより、将来予告なしに変更することがあります。

●本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不明の点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お手数ですが、下記サポート窓口までご連絡ください。

●本書の内容の全部または一部を、無断で転載、複製することは禁止します。

●当社は、オリジナルディスクに物理的な欠陥がある場合を除き、いかなる保証も行いません。

●当社は、本製品の使用または使用不能から生ずる直接的または間接的損害については一切責任を負いません。

商標

●Windows95/98/NT/2000/Me は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

●Web カンファレンスサーバーは NEC システムテクノロジー株式会社の商標です。

●Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat および Acrobat ロゴは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

●その他、記載されている会社名、製品名は、各会社の登録商標または商標です。

お問い合わせ先

本製品に関するお問い合わせは「株式会社東邦ビジネス管理センター サポート窓口」まで、電話または FAX でご連絡ください。

TEL　03-3983-3100

FAX　03-3983-9208

住所　〒170-6057　東京都豊島区東池袋 3-1-1 サンシャイン 60－57F

履歴

2003 年 5 月　初版発行

ペンシャトル取扱説明書 目次

1 概要

ペンシャトルは、タブレット上に載置した用紙に専用ペンで手書きをした筆跡を、リアルタイムにパソコンに取り込み表示することができます。また、プロジェクターを介してスクリーン上に表示させると、黒板（またはホワイトボード）に記載するのと同様に見せることができます。記入した手書き筆跡データは保存でき、後で再生できます。

また、WEB カンファレンスに参加している時に、WEB カンファレンスの“共有”機能を使用すると、全ての参加者がペンシャトルを共有してお使いいただくことができます。

1.1 動作環境

ペンシャトルを動かすには、以下の条件を満たす必要があります。
※他、WEB カンファレンスの動作環境を満たす必要があります。

ＯＳ	Windows95/98/NT4.0/2000/Me ※注　サービスパックが必要な場合もあります
パソコン環境	PC-AT 互換機（DOS/V 機）
CPU 性能	Intel PentiumⅡ 233MHz 以上を推奨
メモリ	32Mbyte 以上
HDD	10Mbyte 以上のフリースペースが必要
CRT	SVGA(800×600)以上 XGA(1024×768)以上を推奨 65536 色以上
入力タブレット	ペンクリッパーVer.203 以降
インタフェース	RS-232C

1.2 システム構成

携帯手書き入力タブレット（以下入力タブレット）上に載置した用紙に専用ペンで手書きをした筆跡を、RS-232C 通信により、リアルタイムにパソコンに取り込み後続の処理ができます。また、プロジェクターを介してスクリーン上に表示させると、黒板（またはホワイトボード）に記載するのと同様に見せることができます。記入した手書き筆跡データは保存でき、後で再生できます。

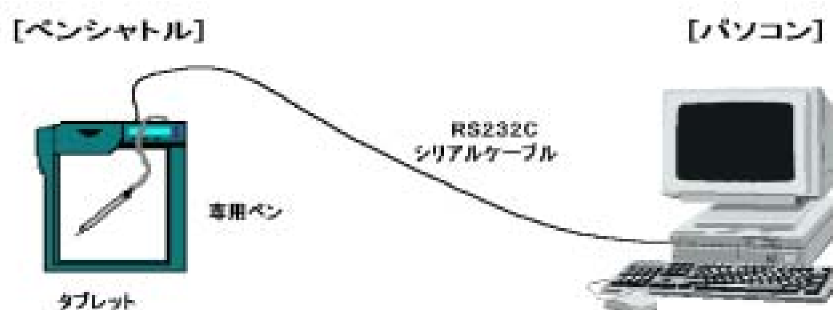


図 1.1　ペンシャトルのシステム構成図

WEB カンファレンスに使用する場合、会議に参加している端末の中の1つにＷＥＢカンファレンス対応ペンシャトル(端末A)を起動します。
それ以外の端末は、自分自身につながっているタブレットと接続する「ペンクリック」アプリケーションを起動します。ＷＥＢカンファレンスの「共有」機能を使用すると、端末Aで起動したペンシャトルの画面が、端末B･Cでも表示され、通常のペンシャトルと同様に使用する事ができます。また、端末B･Cでもタブレットに接続すると、タブレットに書いた内容が画面に反映されます。

・ 以後、ＷＥＢカンファレンス対応ペンシャトルを起動する端末Ａを、”オリジナルマシン”と記載します。
・ 以後、その他の、オリジナルマシンで起動したペンシャトルを共有する端末B･Cを、“共有表示マシン”と記載します。

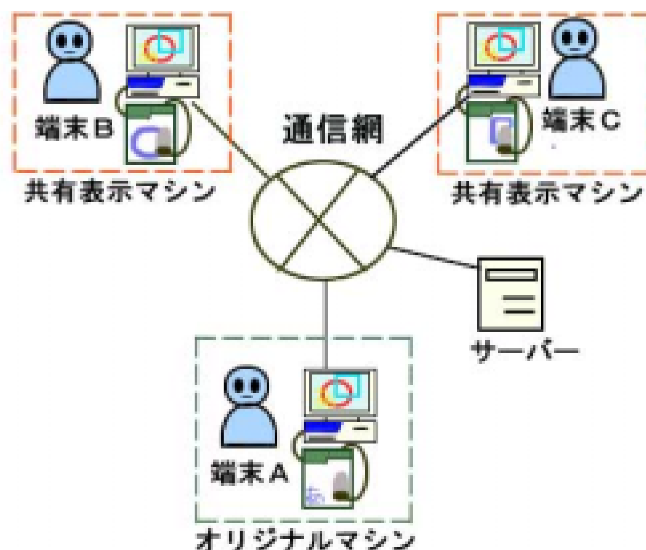


図 1.2 WEB カンファレンス適用時のシステム構成

1.3 機能概要

ペンシャトルプログラムは、次の機能で構成されています。

① 手書き筆跡の同時表示
② 手書き筆跡データの保存
③ 手書き筆跡データの再生
④ 手書き筆跡データの印刷
⑤ 背景画像の取り込み

ペンクリップは、次の機能で構成されています。

① 有表示マシンにつながっているタブレットの接続
② 共有表示マシンにつながっているタブレットの切断

2 ペンシャトルのセットアップ

ペンシャトルのセットアップは、SETUP.EXE というセットアッププログラムを使用して行います。セットアッププログラムでは、ディレクトリを作成し、ペンシャトル・ペンクリップなど必要なファイルをハードディスクにコピーし、ペンシャトルをインストールします。

セットアップ手順

1. 入力タブレット「ペンシャトル」のソフトウェアが入った CD-ROM を CD ドライブにセットします。
2. セットアッププログラムを起動します。セットアップの自動実行機能が有効になっている場合は、CD-ROM 挿入時に自動的に起動されます。
3. 画面に表示されるセットアッププログラムの指示に従ってください。
4. コンピュータ再起動の必要がある時は、再起動後にディスクのルートディレクトリにある SETUP.EXE を実行し、その後画面に表示されるセットアッププログラムの指示に従ってください。

3 アプリケーションの起動方法

3.1　ペンシャトル

ＷＥＢカンファレンスサーバーの会議に参加しないで使用する場合や、オリジナルマシンとして使用する場合は、以下の手順でペンシャトルを起動します。

①“ＷＥＢカンファレンス対応ペンシャトル“を Windows のメニューか、ディスクトップのショートカットから起動します。
②図３．１のメニューダイアログが表示されるので、”ペンシャトル“を選択して”実行“ボタンを押します。
すると、ペンシャトルが起動します。



図３．１　選択メニュー

3.2　ペンクリップ

ＷＥＢカンファレンスの共有表示マシンとして使用する場合は、以下の手順でペンクリップを起動します。

①“ＷＥＢカンファレンス対応ペンシャトル“を Windows のメニューか、ディスクトップのショートカットから起動します。
②図３．１のメニューダイアログが表示されるので、”ペンクリップ“を選択して”実行“ボタンを押します。
すると、ペンクリップが起動します。

4 ペンシャトルの操作説明

4.1　メインウィンドウ

ペンシャトルを起動するとメインウィンドウ（図 4.1）が現れます。

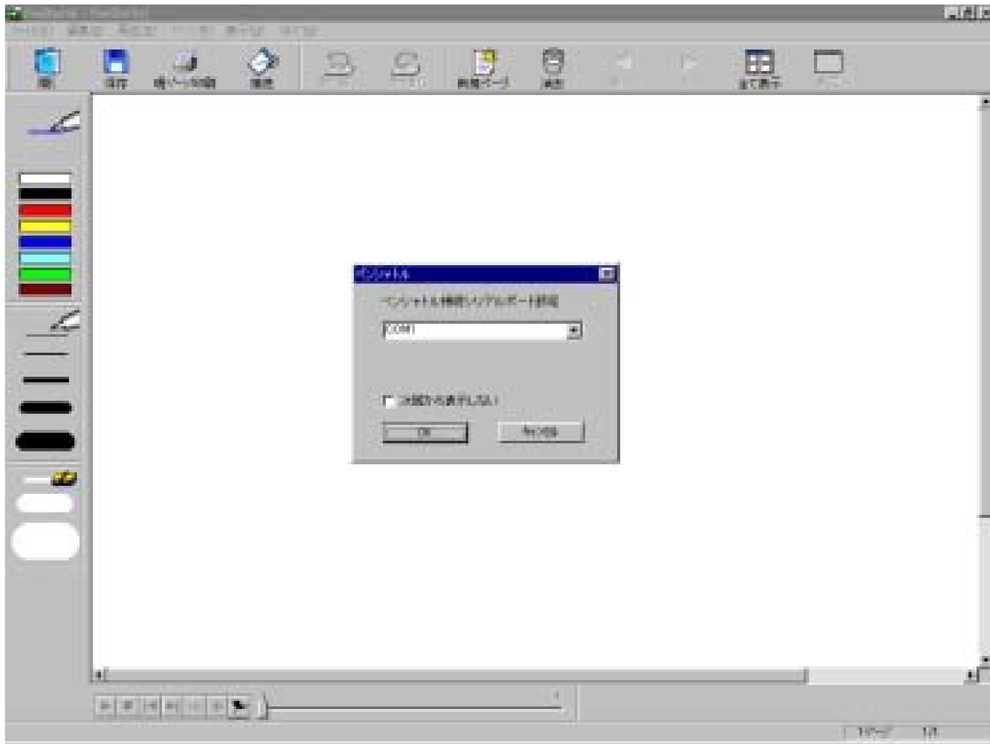


図 4.1　メインウィンドウ

また、RS232C の接続ポートの確認ダイアログも表示されます。



図 3.2　接続設定ダイアログ

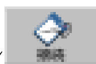
ここで RS232C を接続するポートを指定してください。通常は「COM1」です。
「ＯＫ」ボタンをクリックするとこのダイアログが閉じます。
また、「次回から表示しない」をチェックすると、次からは表示されません。

4.2 手書き入力の仕方

ここでは、ペンシャトルを使った手書き文字や図形の入力について説明します。
［便利］表示欄は、ペンシャトルの便利な使い方を説明しています。

(1) 入力タブレットの電源が入っていることを確認してください。
＊入力タブレットの LCD 窓に何か表示されていればＯＫです。

(2) 入力タブレットがパソコンの指定した接続ポートと付属のシリアルケーブルで接続されていることを確認してください。

(3) メインウィンドウの「接続」ボタンをクリックします。

(4) 数秒後に入力タブレットから「ピッ」という音がします。これで接続が完了しました。もしも「接続エラー」が表示されたら、もう一度入力タブレットの電源、シリアルケーブルの接続を確認してください。

(5) 入力タブレットの専用ペンで入力タブレットに載置した紙に専用ペンで記入すると、記入した筆跡が同時にパソコンの画面上に表示されます。
［便利］パソコンをプロジェクターに接続して、スクリーンに投影すると、まるでスクリーンが黒板やホワイトボードのようになります。

(6) 記入筆跡の色、太さは入力タブレットに印刷された□印のワク内を専用ペンで触れることで選択できます。また、メインウィンドウのパネルをマウスでクリックしても同様に選択できます。色は 8 色、太さは５種類あります。
［便利］記入筆跡の色や太さを専用ペンで選択したとき、パソコンで「ピッ」という音がします。これは確かに選択したという合図で、誤操作を防いでくれます。ただし、パソコンのサウンド機能によっては音がしない場合もありますので、その場合は、パソコンのサウンド機能をチェックしてください。

(7) 記入筆跡を消すこともできます。この場合は、入力タブレットに印刷された消しゴムを示す□印のワク内を専用ペンで触れてください。消しゴムの太さは 3 種類あるので消したい筆跡の大きさに合わせて選んでください。その後、メインウィンドウを見ながら消したい部分を専用ペンでなぞってください。
［便利］記入した筆跡を１ページ分全て消したい場合や、途中から消したい場合は、もっと便利な機能があります。それは、次章で詳しく述べますので、そちらを参照してください。

(8) 最後の筆跡を消す場合には undo 機能を使います。　間違って消してしまった場合、redo 機能で元に戻すこともできます。

(9) 文章の区切りを自分で設定したい場合、マークボタンを押すと、そこが区切りになります。一つでもマークを挿入すると再生時の区切りはマークだけとなり、自動的に区切ることはしません。

(10) 1ページの記入が終わり、次のページに移る場合は、入力タブレットの紙を新しいものに置き換えて、入力タブレットの「新規」の□印のワク内をペンで触れてください。メインウィンドウが白紙の状態になります。これはメインウィンドウの「新規」ボタンをマウスでクリックしても同様です。

(11) 前（次）のページを表示させたい場合は、入力タブレットの「前へ」（「次へ」）の□印のワク内をペンで触れてください。また、メインウィンドウの「前へ」（「次へ」）ボタンをマウスでクリックしても同様です。

(12) すべてのページを一度に表示するには、メインウィンドウの「全て表示」ボタンをクリックしてください。

(13) 手書き筆跡データを保存したい場合は、メインウィンドウの「保存」ボタンをクリックしてください。データを保存する場合、用途によって次の二つの方法があります。

① 後でペンシャトルソフトを使用してで表示したり、修正したりする場合。
「.psl」形式で保存してください。この形式はペンシャトル独自の形式のため、他のソフトウェアで開くことはできません。

② 後で別のソフトウェアで画像データとして処理したい場合。
「.bmp」形式、「.jpg」形式または「.png」形式で保存してください。この形式は Windows 標準の形式です。「ペイント」などのソフトウェアで読み込むことができます。また、ブラウザソフトで表示することもできます。ただし、ペンシャトルソフトで再生することはできません。また、どちらの場合も縦横のサイズを指定できます。規定値は縦 640dot、横 480dot ですが、数を大きくするとより繊細な画像となり、小さくすると荒い画像になります。

［便利］いずれの場合も、ファイル名を自分でわかる名前にした方が、後で整理するときに便利です。

4.3　手書き筆跡データの再生

ここでは前章で記入し保存した手書き筆跡データを、ペンシャトルで再生する機能について述べます。この場合は、入力タブレットは接続する必要はありませんが、再生した手書き筆跡データに書き足したい場合や、途中を消しゴムで消したい場合は、入力タブレットが接続されていなければなりません。

(1)　ファイルを開く
メインウィンドウの「開く」ボタンをクリックします。ファイルダイアログから自分の再生したいファイルを見つけます。

(2)　ファイルを開くと、第１ページ目が表示されます。「次へ」「前へ」ボタンで好きなページに移動できます。入力タブレットが接続されていれば、専用ペンでの操作も可能です。

4.3.1 便利な再生機能

ペンシャトルは単に手書き筆跡データを読み込み、表示するだけでなく、あたかも今書いているかのような再生表示ができます。主な機能は、

・　リアルタイム再生
・　区切りごとの頭出し（区切りは筆跡間の時間で自動的に判断する場合と、マークボタンで記入者が設定する場合があります）

これらの機能が便利に使えるように専用のコントロールバーが用意されています。



図 4.3　再生コントロールバー

手書き筆跡データを先頭から再生するときの手順にしたがって説明します。

先頭に戻る：　このページの先頭に戻ります。すなわち、何も書いていない状態です。
再生：　再生をはじめます。最初に記入した時と同じようなスピードで再生します。ただし、一筆で書いたところは実際と同じですが、間に時間が空いたところ（例えば、文と文との間）は自動的に詰められます。
停止：　再生をストップします。再生中の一筆が終了したところで止まります。
次スキップ：　次の区切りまで表示を進めます。
前スキップ：　前の区切りまで戻ります。
最後まで進む：ページの最後まで全て表示します。
マーク　：記入時や再生時に文章の区切りを挿入するときに用います。

4.4　その他の便利な機能

4.4.1 一括消去

ここでは前章で説明した、再生コントロールバーを用いた便利な一括消去について説明します。

・ ページの途中から以降を消去する。
・ ページの内容を白紙に戻す。
・ ページを削除し、ページを詰める。

これらは再生時だけでなく、手書き入力のときにも使える機能です。消しゴムとうまく併用すれば、きれいな手書き筆跡データが作成できます。

(1) ページの途中から以降を消去する。

① 再生コントロールバーを使用して位置を見つけます。

② メインウィンドウの「消去」ボタンをクリックします。

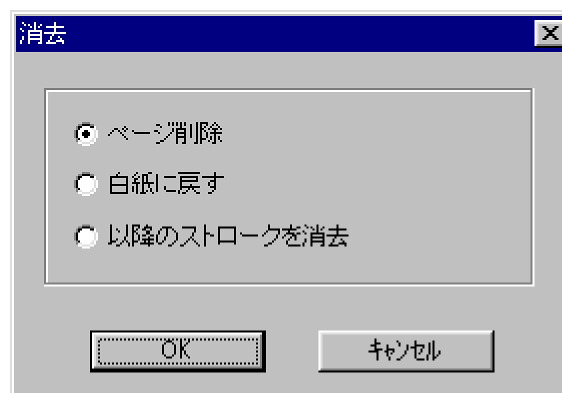


図 3.4　消去ウィンドウ

③ 「以降のストロークを消去」をチェックして「ＯＫ」ボタンを押すと、現在位置から以降のそのページの手書き筆跡データは消去されます。

(2) ページの内容を白紙に戻す。

① メインウィンドウの「消去」ボタンをクリックします。

② 消去ウィンドウで「白紙に戻す」をチェックして「ＯＫ」ボタンをクリックすると、現在表示されているページが白紙に戻ります。

(3) ページを削除し、ページを詰める。

① メインウィンドウの「消去」ボタンをクリックします。

② 消去ウインドウで「ページ削除」をチェックし、「ＯＫ」ボタンをクリックします。現在表示されているページが削除され、全体のページ数が１減ります。

4.4.2 一覧表示機能

ここでは、手書き入力した何ページにもわたる筆跡データを、一括して表示する機能について説明します。

ペンシャトルは通常1ページを表示していますが、何ページにもわたって手書き入力した場合に全体を見たい時、メインウィンドウの「全て表示」ボタン をクリックすると、全てのページが縮小され一覧で表示できます。「前へ」「次へ」ボタンでページを選択して、「表示」ボタン をクリックすると、選択されたページの通常表示に戻ります。

4.4.3 印刷機能

ここでは、手書き入力した筆跡データの印刷の仕方について説明します。

印刷は、1ページ毎、全ページ、ページ指定で行うことができます。プリンタの設定はWindowsのプリンタ設定であらかじめ設定しておいてください。

(1)1ページ毎に印刷

メインウィンドウの「現ページ印刷」ボタン をクリックすると、現在表示しているページを表示しているとおり印刷できます。

(2)全ページの印刷およびページ指定での印刷

メインウィンドウの「ファイル」メニューで「印刷」を選択してください。下記のような印刷ウィンドウが開きます。



図4.5　印刷ウィンドウ

このウィンドウで、印刷の内容を設定して、「ＯＫ」ボタンをクリックすると印刷できます。この方法と、（1）の方法では、現在表示されているページの印刷が異なりますので注意してください。

＊「現ページ印刷」ボタンで印刷した場合は、現ページの表示状態そのままに印刷します。すなわち、再生途中などもそのまま印刷されます。

＊「ファイル」メニューから印刷した場合は、表示されているページは再生の途中の状態であっても最後まで表示した内容で印刷されます。

4.4.4 用紙の設定（背景画像の取り込み）

ここでは、ペンシャトルで手書き入力する場合の紙の位置や、背景の色、また、下敷きにする画像データの設定について説明します。

メニューバーで「ページ」を選んで、「用紙の設定」をクリックすると、下記の用紙設定ウィンドウが表示されます。

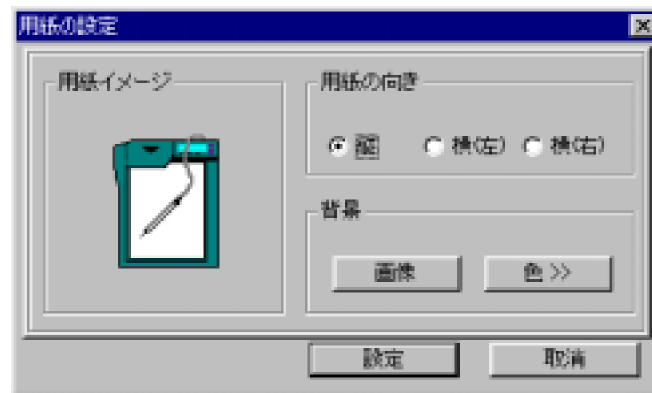


図 4.6　用紙設定ウィンドウ

(1)用紙の向き

「縦置き」「左横置き」「右横置き」が選択できます。右利きの人は「縦置き」「左横置き」を左利きの人は「縦置き」「右横置き」を、それぞれ使うと便利です。

(2)背景の色

用紙設定ウィンドウで「色>>」ボタンをクリックして画面の背景の色を選択してください。

(3)背景に画像データを貼り付ける

ペンシャトルは無地の紙に手書き入力するだけでなく、既存の原稿や、絵などを下に敷いて、上から手書きで入力するような用途のために、背景に画像データを貼り付ける機能を持っています。あらかじめ原稿や絵をスキャナーなどで取り込み、画像データファイルを作成しておき、用紙設定ウィンドウで選択してください。サポートする画像データは「.bmp」、「.jpg」、「.png」です。

<u>＜注意＞</u>　画像データを貼り付けてその上に手書き入力している時に消しゴムを使用すると、同時には消えません。ペンを放したときに消す処理を行いますので、多少時間がかかります。また、再生時も同様です。また、このページを保存した場合は、再生時も自動的に画像データが貼り付けられます。

4.4.5 カスタマイズ

ここではペンシャトルでできるカスタマイズについて説明します。
メニューバーで「ファイル」を選んで、「カスタマイズ」をクリックすると、下記のカスタマイズウィンドウが表示されます。

（1）色の設定



図 4.7　カスタマイズウィンドウ（色）

ペンシャトルでは、8 種類の色が使用できます。この色はあらかじめ、「白」「黒」「赤」「黄」「青」「水色」「緑」「茶」のように決められています。この色の数は変えられませんが、色種を変えることができます。このウィンドウで変えたい色を↑↓キーで選択し、「変更>>」ボタンを押すと、カラーパレットが表示されます。ここで自由に選択してください。ただし、入力タブレットにもあらかじめ色種が印刷されていますので、シールを貼るなりして対応してください。

（２）タブレット追加機能の設定



図 4.8　カスタマイズウィンドウ（タブレット）

メインウィンドウにある、「取り消し」「やり直し」や再生コントロールバーにある「マーク」の機能をタブレット上の□印（シールに対応していない下の 8 個の□を F1 から F8 と名付けます。）をペンで触れることによって実行できます。このカスタマイズウィンドウでどの□をその機能に割り付けるかどうかを設定できます。（あらかじめ F1 は取り消し（Undo）、F2 はやり直し（Redo）、F3 は文章の区切りの挿入（マーク）に設定されています。）

また、ペンシャトルでは色や、線の太さなどを変更したときに「ピッ」という音を出しますが、これを消すことができます。カスタマイズウィンドウで「Ｂｅｅｐ音」のチェックを外すと音がしなくなります。

（3）その他の設定

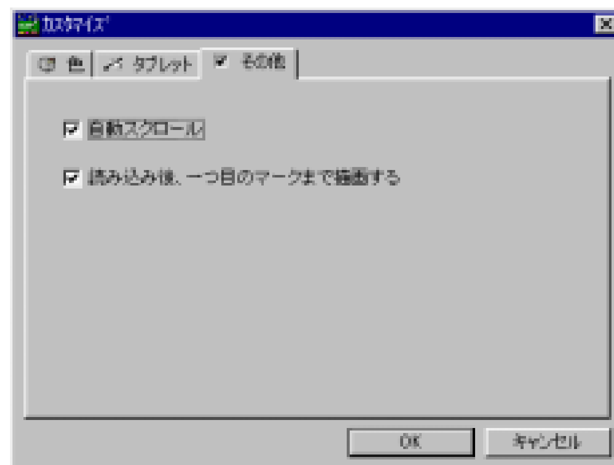


図 4.9 カスタマイズウィンドウ（その他）

ここでは、表示に関するカスタマイズの設定を行います.

・自動スクロール：タブレット上で記入しているとき、画面の表示領域の外側にはみ出たとき、自動的にそれを検知し、適当な位置に画面をスクロールさせる機能を使う場合、ここをチェックします。

・読み込み後、一つ目のマークまで描画する：通常はペンシャトルで作成したファイルを読み込むと全体を描画しますが、最初のマークまでを表示したいときにここをチェックします。記入時にマークが設定されているファイルのみ有効です。例えば問題だけを表示させて、解説終了後に解答を見せる場合などに有効な機能です。

4.4.6 ズームの設定

ここではペンシャトルで表示する手書き入力ウィンドウのサイズの指定方法について説明します。

通常はＡ４サイズの実寸に近く設定されていますが、使用するパソコンの種類や、サイズで画面に入りきらない場合もあります。スクロールバーを用いて全体の表示もできますが、表示の縮尺を変えて画面にちょうど良いサイズを選ぶことができます。メニューバーで「表示」を選んで、「ズーム」をクリックすると、下記のズームウィンドウが表示されます。



図 4.10　ズームウィンドウ

ここで、４０～２００%のどれかをチェックするか、「倍率指定」で任意の数字を設定し、「設定」ボタンをクリックすると画面の表示の縮尺が変わります。

5 WEB カンファレンスで使うには

5.1　オリジナルマシンの手順

5.1.1　ペンシャトルを共有できるようにするまで

①WEB カンファレンスに接続し、会議に参加します。
②ペンシャトルを起動します。
③タブレットと接続します。
④共有のサービスを開始します。
⑤ペンシャトルを共有します。

これで、共有表示マシンとペンシャトルを共有して使用できます。
※ペンシャトルの起動方法は“３．アプリケーションの起動方法”を参照してください。
※WEB カンファレンスサーバーの操作方法は「WEB カンファレンスサーバー」の「ユーザーマニュアル」を参照してください。

5.1.2　ペンシャトルを終了するには

①ペンシャトルの共有を解除します.。
この時、全ての共有表示マシンの画面からペンシャトルの表示が消えます。
②タブレットと切断します。
③ペンシャトルを終了します。

5.1.3　ＷＥＢカンファレンスを終了するには

①ペンシャトルの共有を解除します。
②共有のサービスを解除します。
③ＷＥＢカンファレンスを終了します。

5.2 共有表示マシンの手順

5.2.1 ペンシャトルを使えるようになるまで

① WEB カンファレンスに接続し、会議に参加します。

既に、オリジナルマシンでペンシャトルが共有されていれば、図 5.1の様にペンシャトルが表示されます。

表示されないようであれば、まだ共有の設定がなされていないので、表示されるまで待ちます。



図 5.1 共有されたペンシャトル

②ペンクリップを起動します。起動すると、タスクトレイにアイコンが表示されます。



図 5.2 ペンクリップのアイコン

③アイコンを右クリックし、メニューを表示します。

④メニューから“接続”を選択します。すると、共有表示マシンに接続されているタブレットと、接続されます。

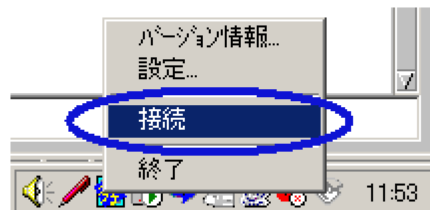


図 5.3 “接続”のメニュー



図 5.4 タブレットと接続時のアイコン

⑤メインウインドウに記入したいときは、制御権要求ウインドウをクリックし、オリジナルマシンからの許可を待ちます。許可が与えられれば制御権を取得します。制御を拒否されると、タブレットに書いても画面に反映されません。



図 5.5 制御権要求時のアイコン

これで、オリジナルマシンと、制御権を取得した共有表示マシンに接続されたタブレットで、文字や図形を双方向で入力しあうことができます。

5.2.2 ペンシャトルの使い方

基本的には、通常のペンシャトルの使用方法と変わりません。

しかし、以下のメニューは全て、オリジナルマシンが対象となります。

“開く”：オリジナルマシンのフォルダが表示され、オリジナルマシンが接続しているＨＤ・ＭＯ・ネットワークドライブ等のファイルを開くことができます。

“保存”：オリジナルマシンのＨＤ・ＭＯ・ネットワークドライブ等のファイルを上書きします。

“接続”：オリジナルマシンに接続されたペンと接続します。

“切断”：オリジナルマシンに接続されたペンを切断します。

“現ページ印刷”：オリジナルマシンの“通常使用する”に設定されたプリンタから印刷されます。

5.2.3 ペンシャトルを終了するには

①オリジナルマシンがペンシャトルの共有を解除します。そうすると、全ての共有表示マシンの画面からペンシャトルの表示が消えます。

②ペンクリップのアイコンを右クリックして、メニューを表示します。

③メニューから“切断”を選択します。すると、共有表示マシンに接続されているタブレットと、切断されます。

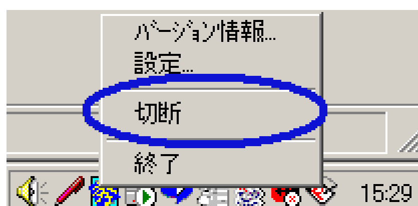


図5.6 “切断”のメニュー

④すると、アイコンは図5.7の状態になります。

⑤ペンクリップのアイコンを右クリックして、メニューを表示します。

⑥メニューから“終了”を選択します。PenClip2 は終了し、アイコンはタスクトレイから消えます。

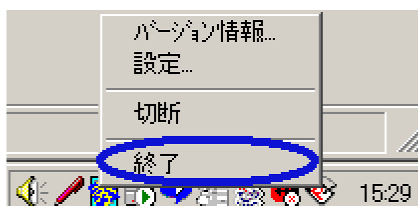


図5.7 “終了”のメニュー

5.2.4 終了するには

①共有のサービスを解除します。

②WEBカンファレンスを終了します。